

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや
ちくさ
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 〒464 千種区池下一丁目4番18号
井上ビル4F D号
Tel 763-5110
会長 加藤大豊

見つけよう 奉仕の新生面
Discover a New World of Service

No. 15

1984~85年度 RI 会長 カルロス・カンセコ

第109回例会 昭和59年10月9日(火)晴

FSM及び会員夫人懇親会 於: 桑名・船津屋

◆出席報告

会員 52(64)名 出席 16名
出席率 30.77 %
前回 10月2日 (修正出席率) 100 %

make up

安藤君(10/1中), 堀江君(10/1中), 木全君(10/5港), 久保田君(10/1中), 佐野君(10/2瀬北), 笹野君(10/4東南), 手島君(9/27瑞穂), 都築君(10/8中)

◆ビジター紹介 67名

◆ニコボックス

北RC水野君(2度も貴クラブおじゃましながら, 例会変更にあたり皆様にお会いできなくて残念です), 水野(氏)君(覚王山落慶式無事に終わりました。13・4日のフェスティバルは是非お参りの程)

◆加藤大豊会長挨拶

先週はクラブの年度の重大行事の1つでもあるガバナー訪問も皆様のお力と、ご協力により、大過なく無事終了する事が出来ました。奥谷ガバナー、宮木分区代理も大変満足してお帰りになりました。会長の私も少し肩の荷を下ろす思いが致しました。まずは厚くお礼申し上げます。

さて今晚は多数のご参加を頂き、こゝに夜間例会の開催出来ます事を感謝申し上げます。

今度はメンバーの浅井さんのお世話でこの有名な桑名の船津屋さんをご紹介頂き、船遊びと月見の会と大変結構な趣向を考えて頂きました。今時江戸時代の様な、こんな風流な船遊があるとは夢にも知りませんでした。

今晚は奥様方にも多数御出席を賜りましてありがとうございます。いつもご主人方にはロータリークラブを通じて大変お世話になっております。日頃ロータリー活動が出来ますのもやはり奥様方の内助の功があればこそ

であります。

私事を申し上げ誠に恐縮でご座居ますが、今晚は私の家内は参加を致しておりません。なぜならば飛行機と船に乗るのは大嫌いといえますか、実は怖い訳でありまして、申し訳ありません。私も結婚生活36年になります。夫婦とは実にお天気の様なものでありまして照る日も曇る日もあり、そのつみ重ねが夫婦の年輪となって行くのであり、私自身36年振り返ってみて、しみじみと思います。

シェクスピア曰く、険しい山に登るには最初にゆっくりと歩く事が必要である、と申ししています。結婚生活も正にこの言葉の様に一生をかけて初めはゆっくりとあせらずに登る険しい山登りの様なものではないかと存じます。

どうか今後共奥様方にはロータリー活動にご理解を頂きまして、ロータリーの色々な会には進んで行ってらっしゃいとばかり気軽に御主人を出してやって頂きますようお願い申し上げます。

今晚は時間のゆるす限りごゆっくりとお楽しみ頂けますれば幸であります。

~~~~~ 会員夫人懇親会 ~~~~~

親睦活動委員会による秋の家族会として、今回は船津屋にてお月見とお料理を楽しむ会を手配して頂きました。

会員16名、御夫人12名の参加のもとに午後4時過ぎ厚生年金会館よりバスにて出発。和田委員長の挨拶をはじめ、浅井君の御準備により「月を読む」と題して月見を楽しむ知識もバスの中で熱心に勉強しました。

現地に着いて三艘に分かれいよいよ出発。松原の向うにポッカリと上った月は、船頭さんの話しによれば3年に1度見られるかどうか



かの良い月見日和だそうで全員がいにしえの世界に酔いしれていました。



名月を觀賞中、まるで飛び魚のように鱧が音をたてて飛びました。そこで生まれた一句
 ※「ボラ飛んで月見の客をおどろかせ」
 ※「舟よりの月見松原過ぎて行き」
 帰りの車中では、これから皆を何々ちゃん
 と愛称で呼び合おうと提案され全員拍手への和やかな一夕でした。
 ※計らいの苦労や如何に浅井・和田
 桑名の浦に月のほゝえむ
 ※有難や生かしめられて早や六十路
 今桑名浦 友と酒くむ
 ※いずれの句も小坂井君のつくられた
 優秀作品です。

◆奥谷ガバナーよりのお礼状紹介

このたびの公式訪問に際しては、クラブ計画書などの作成の準備を完了せられ、会長を始め会員各位のご協力を賜り無事有意義に終了することができ、厚くお礼申し上げます。

先には地区職業奉仕委員長のホストを務められ、成功裡に終了することができ重ねてお礼申し上げます。

貴クラブは創立わづか2年にして立派なクラブ基礎をつくれ、各委員会活動も活発であり心からお喜び申し上げます。この一年を行動の年として諸計画を実践されると存じますが、その成功を陰から期待申し上げます。

是非近代的なユニークなクラブとして発展されることを希望致します。

会長を始め会員各位のご健勝を祈念申し上げお礼と致します。

昭 59.10.4

ガバナー 奥谷 博俊

カンザスシティで開かれる 1985年R.I. 国際大会への公式招待状

同僚ロータリアンの皆さん：

1985年5月26-29日に米国ミズーリ州カンザスシティで開かれる国際大会でロータリーの創立80周年を祝いませんか？

この緑の多い都市は、有名なサンタフェ街道の起点近くのなだらかな山々に位置しています。米国の多くの開拓者は、新しいチャンス求めてここから西部へ旅立ったのです。カンザスシティのロータリアンもまた開拓者でした。1917年に遡りますが、ロータリー財団に米貨26.50ドル寄付し、最初の寄付者となりました。来年の5月、この都市は、**見つけよう 奉仕の新生面**を旨とし世界中のロータリアンが集う場所となります。

素晴らしい国際大会会場で、本会議のハイライトとして取り上げられるものは、青少年との協力、奉仕と教育の力によって平和に国際的尽力、ロータリーの世界的親睦などであり、奉仕の主要分野に関する講演および世界親睦活動に関する研究会により、学びかつ分かち合う特別な機会が生まれます。ホーム・ホスピタリティと国際親善晩餐会を賑やかに織り込んだあと、国際大会は、会長主催の大舞踏会で頂点に達します。

国際大会が前回カンザスシティで開かれたのは1918年でした。当時、ロータリー・クラブは10カ国に約300ありました。その頃から幾多の変遷がありました。ロータリーは、159カ国に約21,000クラブを擁するまで発展しました。カンザスシティもまた変わりました。現在、130万の友好的な人々から成るこの大都市は、開拓者時代の伝統を尊重し、その上に近代都市の活力とたくましさをプラスしました。過ぎし日のロータリーに敬意を表し、その未来を思い描くのに最適の地です。私やロータリーの世界家族とともに1985年国際ロータリー国際大会にご出席下さるようお願いいたします。

敬 具

カルロス・カンセコ
国際ロータリー会長
(RIニュースより)

◆次回例会(10月16日)

講演 “米山月間を迎えて”

米山奨学生 マーウットーン・ソムサク君
李 光必君 (紹介 竹内君)

◆次々回例会(10月23日)

講演 “無駄の高陽”

(株) 茜 代表取締役会長 鹿子木 健日子氏
(紹介 成田君)